

学力向上に効果のある取組事例

白杵市立市浜小学校

③主体的に学習に取り組む態度の涵養

取組の具体①

○国語: ICT活用やグループ活動を通して
 昨年度、本校は主体的に学びに向かう子どもの育成をメインテーマとして校内研究に取り組んだ。国語科では

- ①子どもの思いや願いを引き出す教師の言葉のかけ方の工夫
- ②子どもの「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業展開の工夫をした。

右上・右中段の画像は授業での成果物を、授業支援ソフト「ロイロノートスクール」の提出箱で共有したものである。

右上「方言と共通語」の学習では、児童が自分で選んだ都道府県の方言を調べ、それを友だちに伝えるために表現方法を工夫(記事、クイズ、箇条書き、など)し、お互いが調べたものを交流した。

右中段「冬の俳句」の学習では、雪が降った朝の様子を撮影し、その時の気持ちを俳句で表現した。

どの授業でも子どもの思いや願いを引き出す言葉かけや「主体的・対話的で深い学び」を促す授業展開の工夫がされている。

右下の画像はグループ活動の様子である。グループ活動までの流れは、めあてや課題を子ども自身に考えさせる

- 具体的な見通しをもたせる
- 「今日はどうしたい?」「今日はこれをやってみるでいい?」といった働きかけによって思いや願いをもたせたる
- 自力解決後に他児童との考えの交流を促す、というサイクルである。



取組の具体②

○算数: 習熟度別少人数指導を通して
 昨年度、本校は①「子どもの知的好奇心を高める問題提示や既習事項の活用、問いをもたせる働きかけの工夫をすれば、子どもは問題解決への思いや願いをもち、主体的に『課題』を設定することができるであろう」
 ②「よりよく課題解決を図るために、『対話』の目的やその目的を達成するうえでふさわしい相手を意識した『わかりあう』場を設定したり、互いの考えのズレや違いをもとにして『深める問い』を効果的に位置づけたりすれば、子どもたちは思考を深め、高めることができるであろう」③よりよく解決できたことを実感させるための『ふりかえり』の工夫をすれば、子どもたちは次の学びを生み出すであろう」という3つの仮説をもとに習熟度別指導で算数科の授業を行った。

右上の画像は上記の①～③の仮説を意識した算数科の基本的な板書パターンである。「考え」プレートのところに、児童が発表した考えが位置づけられ、同じ考えを持つ児童の名前プレートが整理されている。

右中段の画像は、正六角形の内角の和を求める単元で、仮説①②にフォーカスした板書である。児童が様々な考えで内角の和を導き出し、お互いの考えを伝え合い、「わかりあう」場が設定されている。

右下の画像は、仮説③にフォーカスした「平行四辺形」の授業であり「ロイロノートスクール」の提出箱を活用した。習熟度別少人数指導のメリットを生かし、時間内に全員が自分の考え方を図で表現できている。お互いの考えの良いところを自分の学びに生かすことができる授業展開である。

